

平成29年度 学校経営方針

1 教育理念

(1) 本校教育の願い

スイスの恵まれた教育環境を生かし、日本人としての誇りを育てるとともに、豊かな国際感覚を養い、児童生徒一人ひとりの個性・能力の伸長を図り、「未来に生きてはたらく力」をはぐくむ教育の創造に努める。

(2) 本校の教育目標

自ら学び、楽しみ、他を思いやる豊かな心で国際社会をたくましく生き抜く創造性あふれる子ども

(3) 目指す子ども像 自主・自立・協働

- ◎ すすんで学習にはげむ子 (知育)
- ◎ 思いやりのある仲のよい子 (徳育)
- ◎ 明るく強くきたえる子 (体育)
- ◎ スイスの友と学びあう子 (国際理解)

(4) 学校経営基本方針

『信頼される学校づくり7つのポイント』

① 子どもの健康と安全の確保

- ・通学上の安全、施設の安全、外部侵入者に対する安全、自然災害に対する安全
- ・健康管理、疾病及び感染症予防指導と発生時の対応、適度な運動指導、心の教育、カウンセリング、特別な支援を要する子どもの指導
 - i 老朽化した学校の施設設備には常に目を配る。
 - ii 新たに設置されたセキュリティー設備を有効に活用し、子どもの安全確保を最優先する。
 - iii 保護者に帯同して海外で暮らす子どもの心は不安定であるという認識を常にもち、子どもに寄り添い、親身になってその子を支えたい。

② 子どもの学習環境の確立

- ・学習空間（教室、特別教室）の整備、教具、副教材の工夫と充実化
- ・学びを大切にすする雰囲気づくり、きれいな学校づくり
(清掃が行き届いた校舎、見やすく機能的な掲示物、整頓された靴箱・机・椅子、清潔なトイレ、緑、花のある校庭)
 - i 清掃の行き届いた校舎、整頓された教室、きれいな黒板は、学びを大切にしている証である。
 - ii 掲示物も大切な教育環境であると捉えたい。優れた掲示物の中で子どもの心が育つ。

③ 学習指導要領に準拠した子どもの学ぶ力、知・徳・体の育成

- ・小規模校としてのメリットを最大限引き出す工夫
- ・子どもの学ぶ喜びとの出会いと教師の授業力の向上
- ・授業改善、生徒指導、危機管理に関する職員研修の充実
- ・温かい人間関係の構築と道徳、集団指導

(自他のよさへの気づき・互いによさを認め合い、友とつながり合うことの喜び・人のために役立っているという有用感・自分が生かされていることへの感謝)

- i 学びとは、自ら問う力を身につけさせることと捉える。そのためには基礎基本を充実させたうえで、思考し判断する場が必要である。⇒主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)へ。
- ii 子どもの学びの過程をとおして、成就感、達成したときの喜び、その積み重ねを大切にしたい。
- iii 小規模校のよさを生かした温かな人間関係の醸成⇒ プラス言葉で相手のよさを見つけたり、自分のよさに気づいたりしながら、相手や自己を肯定的に捉えさせたい。
- iv 「あいさつ・へんじ+α (くつならべ他)」と語先後礼(集会、授業の初めと終わり)で、生活にめりはりとけじめをつけさせたい。

④ 特色ある教育の創造

- ・スイスの伝統・文化・歴史を学び、地域の人々の生き方や価値観を理解するとともに、よりグローバルな視野をもった持続可能な社会づくりの発想
 - ・日本の伝統・文化・歴史を学び理解しながら、日本人のよさや特性を知り、世界の平和に貢献しようとする姿勢
- i 地元校との交流を進め、日本では味わえない国際感覚と感性、寛容さを培う。
 - ii 儀式的行事等でスイス国歌を原語で歌い、この国に敬意を払う心を育てたい。

⑤ 開かれた学校づくりと積極的な情報発信

- ・日常からの学校公開、授業参観、学校行事の公開を推進
 - ・学校ホームページ、学校からの「便り」の充実
- i 家庭・地域社会・関係諸機関等との連携を深め、開かれた学校づくりを進める。

⑥ ねらいをもった教育活動の遂行と組織的なQC(クオリティ コントロール)の実現

- ・組織を生かした目標の遂行並びに管理(データに基づき目標値を立て、実行計画を遂行)⇒子どもが自己の成長を実感できる効果ある教育活動
 - ・組織マネジメント、学校自己評価システム(PDCAサイクルの導入)、アクションプランの公開と実践
- i 教師は評価指標により1年後のめざす子どもの姿を明確に意識する。
 - ii 年2回のアンケートを実施。それぞれ分析し、アクションプランが効果的であったかを考察する。効なきアクションプランは速やかな改善を。

⑦ 教職員の服務規律の遵守と職責の遂行

- ・教育の専門家としての姿勢、不祥事を絶対に起こさない心構え
 - ・子どもや保護者への親身な対応
 - ・学校事故に対する迅速で的確な判断と対応(報連相)
- i 迅速な出勤簿・年休簿等の処理、整理された机上、公私の区別、身だしなみ。
 - ii 公用旅券を絶対なくさない。⇒紛失した場合は、ためらわず校長に連絡を。
 - iii 補習校との良好な関係を保ち、支援する立場から双方の教育の充実・発展に努める。

2 教育計画（新学習指導要領の移行期間を次年度に控えて）

(1) 教育活動の改善・充実

① 計画的・組織的な経営による教育活動の活性化

ア 校務分掌を明確にし、一人一人が責任をもって与えられた職務を遂行するとともに、全職員の協働態勢による積極的な教育活動を推進する。

イ マネジメントサイクルを取り入れた教育活動を展開し、教育の質の向上を図る。

② 教育課程の円滑な実施

ア 週時程の工夫とともに、教育課程の完全実施を目指す。

イ スイスにあることを生かした教育課程編成・実施の工夫を図る。

ウ 小規模校の利点を生かした教育活動の充実を目指す。

③ 学習指導の充実

ア 適切な年間指導計画の作成とその実施に努める。

イ 少人数のよさを生かした指導方法の工夫改善に努める。

ウ 新たな教材教具の開発並びに効果的な活用に努める。

エ 保護者・地域及び邦人社会等の人材活用による授業実践に努める。

オ 副読本「私たちのスイス」等を活用し、スイスならではの教育を推進する。

④ 生徒指導の充実

ア 心に響く道徳教材を活用した道徳の充実に努める。

イ 日々の生活を通して、教師と児童生徒の豊かなふれあい活動に努める。

ウ 家族的な温かさの中で、相手を思いやる態度、言葉、挨拶を重視する。

⑤ 特別活動の充実

ア 児童生徒の実態や地域の特徴を生かした活動内容の工夫に努める。

イ 児童生徒会を中心にした子どもの主体性を生かした活動の充実に努める。

⑥ 健康安全教育

ア 危機管理マニュアルの共通理解をはかり、欧州で頻発するテロ、日本での災害も想定した避難訓練等の実施に努める。

イ 年間を通じた計画的・日常的保健衛生指導の充実に努める。

⑦ 国際理解教育の充実

ア 地域の教材や素材を生かした校外学習の充実に努める。

イ スイスの自然や文化に触れた体験的学習の充実に努める。

ウ 現地校との継続的交流を推進するとともに、地域の行事等に積極的に参加する。

⑧ キャリア教育の推進

ア 計画的、体系的なキャリア教育の充実に努める。

イ 職場訪問等、地元機関や企業での体験的学習の機会の充実に努める。

ウ 人生観、職業観を広げる講話会の機会の拡充に努める。

エ 幅広く国内外高校等、進路学習に役立つ資料の収集に努める。

⑨ 情報教育の推進

- ア インターネット等を効果的に活用し、情報活用能力の育成に努める。
- イ 研修を通して、教職員の情報活用能力の伸長に努める。

⑩ 施設・設備の活用

- ア 施設・設備の効果的な活用と適切な管理に努める。
- イ 計画的、日常的に施設・設備の安全管理を行い、事故防止の徹底に努める。

⑪ 教職員研修の充実

- ア 本校の教育目標に迫るテーマの研究と実践に努める。
- イ 研究・実践の成果や課題について相互に情報交換する機会の充実に努める。
- ウ 授業研究等、補習校を支援し、合同研修会の充実に努める。
- エ スイスにいることを生かした現地理解教育を推進する。

⑫ その他

- ア 学校ボランティア制度の効果的な運用を推進する。
- イ 体験入学を積極的に実施し、本校の教育活動を広く地域社会に周知する。
- ウ オープンドア(学習参観日)及び学級懇談会を計画的に実施し、保護者の本校教育活動への理解と協力を資する。
- エ 学校だより、学級だよりを定期的に発行し、保護者の本校教育活動の理解につなげる。
- オ 学校運営委員会・保護者会・関係諸機関と密接な連携を取り、円滑な学校運営に努める。

(2) 運営管理体制

学校運営委員会と緊密な連携を図りながら、適切な運営管理に努めるとともに、関係諸機関との連携に努める。

(3) 児童生徒の確保

少人数のよさを生かした教育活動の工夫・充実に努め、日本人社会や現地地域に評価される魅力ある学校づくりに努める。

(4) 財務内容の改善

授業料収入等の財源確保に努めるとともに、支出を抑制し、健全な財政運営に努める。

(5) 学校評価の実施

年度初めにめざす姿を評価指標に提示し実践するなかで、保護者・児童生徒・教師へのアンケート調査により、その声を生かしたアクションプランを作成し、よりよい学校づくりに努める。

3 重点目標

(1) 学力の向上（基礎基本の確かな定着と思考力・判断力・表現力の育成）

- ① 年間授業時数を確保し、小学部 45 分、中学部 50 分の授業の充実に努める。
- ② 小規模校の特色を生かした個に応じた指導の充実に努める。
- ③ 評価は子どもの現状を把握し、意欲を高めさせるための手だてとして、観点別評価により根拠を明確にした評定をおこなう。
- ③ 教育活動の全体を通し、言語活動の充実に努める。

(2) 心の教育（思いやりと規範意識の育成）

- ① 道徳の時間の充実と教育活動全体を通した道徳教育及び人権教育の充実に努める。
- ② 学年を超えた交流活動(J S タイム、クラブ活動)や体験的な活動の工夫・充実に努める。
- ③ 意図的・計画的な相談活動及び児童生徒と教職員との日常的なふれあい活動の充実に努める。

(3) 進路指導の充実

- ① 各学年に応じた年間を通した進路学習の充実に努める。
- ② 人生観・職業観を育てる職業体験学習や講話会の充実に努める。

(4) 開かれた学校づくり

- ① オープンドアをはじめ諸行事等、学校参観の機会の充実に努める。
- ② 日常的な教育相談等、保護者と教職員の「対話」の充実に努める。

(5) 児童生徒数の確保

- ① 少人数を生かした「魅力ある学校づくり」に努める。
- ② 積極的に本校教育のよさを情報発信するなど、PR活動に努める。